

推進校別事業実績報告書

<取組と成果のポイント>

- ・総合単元的な道德の授業において、心のシートを活用して体験的な活動の目標設定と振り返りの工夫をすることで、生徒の道德的価値の意識が持続し、よりよく生きるための道德的実践力の高まりが見られるようになった。
- ・毎時間の道德の時間の中で、明確なねらいや内容項目の意識化、工夫した発問や板書などの指導過程の基本形を意識した取組、自己の生き方を振り返るためのワークシートを使った本音を引き出す対応を行うことで、生徒同士が本音で関わり合い、道德的価値観を高めることができた。

1 推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	生徒数	備 考
稲沢市立明治中学校	愛知県稲沢市片原一色町小山1番地	0587(36)1323	391人	

2 研究課題

- (1) 学校の教育的課題を踏まえた道德教育内容の重点化
 - ア 公私をわきまえて、集団のために尽くそうとする意識を育む道德教育
 - イ 学級・学校や地域社会の人との関わり合いを通して、自己の生き方を問い続ける道德教育
- (2) 道德教育の計画的な推進と道德の時間の指導の工夫
 - ア 体験的な活動等を組み入れた総合単元的な道德の授業の構想と実践
 - イ 道德教育用教材の選択・開発と心のノートの効果的な活用

3 研究主題とその設定理由

現代社会において、人との関わりの中で、自己中心的な言動や人間関係の希薄さなどといった課題が浮き彫りになってきている。生徒は、時に公私の区別なく生活しているのが実情である。そこで、「公共心」というテーマのもとで、人は支え合って生きていることを自覚したり、集団の中で自らよりよい生き方を模索したりしていく学習を進めていくために、以下に示す研究主題を設定した。

「人との関わりを大切にし、よりよい生き方を考える生徒の育成」
 ―公私をわきまえ、生き方を見つめる総合単元的な道德の授業を通して―

4 研究の概要及び特色

(1) 研究構想

道德の時間の目標は、道德的実践力の育成である。本校では、道德の時間を要とした道德教育で培った道德性を、自分自身や他の人、自然や崇高なもの、集団社会と関わることで、道德的実践力が向上すると考えている。そこで、各学年における系統性を意識して、本校における道德の時間の研究構想を右図のように設定した。

(2) 研究仮説

日常生活の中で「公共心」についてふれる機会が多い。しかし、心情的にはわかっている、実際にそのような場面に直面したときに自分で判断して行動できているかといえは疑問である。「公共心」という道德的価値が深く自覚され、人としてよりよく生きようとする道德的実践力を高めていくために、そして研究主題に迫るために、次のよ



うな研究の仮説を立てた。

- ① 総合単元的な道徳の授業において、生徒の実態を把握し、体験的な活動の目標設定と振り返りの工夫をすれば、自己の生き方を見つめ直し、よりよく生きようとする考えを深めていくことができるであろう。
- ② 毎時間の道徳の時間の中で、教師が共感的な対応をし、自己の生き方を振り返るような指導過程の基本形を意識した取組を行えば、生徒同士が本音で関わり合い、道徳的価値観を高めていくであろう。

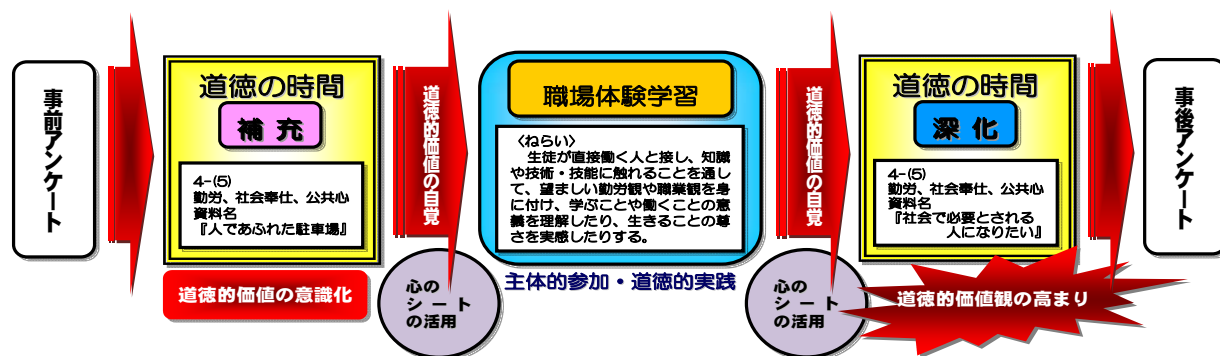
(3) 仮説を支える手だて

仮説を具現化し実践において施す手だてとして、「個と集団の実態を多面的に捉える」「総合単元的な道徳の授業を核にする」「体験的な活動で『心のシート』を活用する」ことを考えた。本校独自のものである『心のシート』は、道徳の24の内容項目を、本校生徒の状況に合わせて、より具体的な目標としてわかりやすく示し、道徳性の自己評価が容易にできるように工夫したシートである。

内 容 項 目	の め っ け	具 体 的 な 目 標	体験的な活動での自分の目標	学 んだ こと
望ましい生活習慣、心身の健康、態度と認知	1-(1)	時間や挨拶を意識して生活し、心身の健康に気を配って生活することができる。	1-(4)	どうしたらいいかわからないときに、人に聞くことができたから、たくさんを知ることができた。
目標の実現、希望と勇氣、強い意志	1-(2)	目標の実現に向けて、最後まであきらめず、粘り強く取り組むことができる。	自分が分からないことがあっても、逃げずに人に聞くようにする。	
自律の精神、自主、誠実、責任	1-(3)	自ら善悪の判断をして、その結果に対して責任をもつことができる。		
異文化・異民族の理解、異文化・異民族の尊重	1-(4)	できないことやわからないことから逃げず、理解をもってよりよく生活していくことができる。		
自己意識、個性の伸長	1-(5)	前向きに考え、自分の良さや個性を伸ばそうとすることができる。		
挨拶	2-(1)	状況に応じて、明るく挨拶や礼儀正しい言葉遣いをするすることができる。		
人間関係、思いやり	2-(2)	多くの人に受け入れられていることを自覚し、親切にしたり、遠くを見守ることができる。		
友情	2-(3)	友達の良さに目を向け、共に励まし合いつながら生活することができる。		
道徳的価値		道徳的実践力（心情・判断力・実践意欲・態度）	道徳的価値観	道徳的価値観の変容（道徳的行為・習慣）
尊敬・感謝、報恩	2-(6)	相手の気配りや協力に対し、素直に「ありがとう」と言うことができる。		

(4) 研究課題にかかわる取組と検証

実践例として、2年生の職場体験学習を軸にした総合単元的な道徳の授業をもとに、研究課題にかかわる取組と検証を示す。



ア 実態把握の工夫 ～個と集団の実態を多面的に捉える～

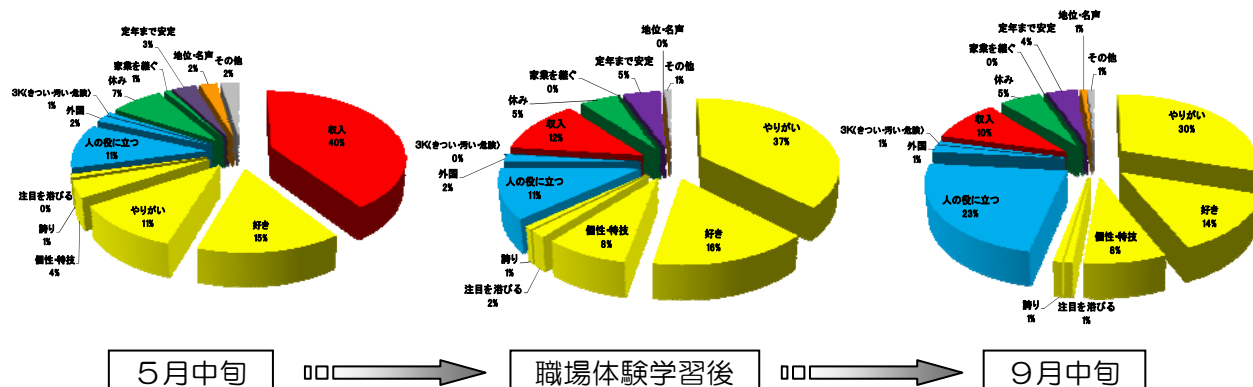
年2回QU（質問紙法）を実施・分析することで、学級の実態把握に努め、望ましい学級集団の在り方や担任とのよりよい人間関係・信頼関係づくりに生かしていった。

- ・個々の生徒の実態を客観的に把握することができ、読み物資料の選定や道徳の時間における意図的指名に役立てることができた。
- ・学級全体の傾向としては、承認・被侵害のマトリックスをまたいでの大きな変容は見られなかった。

体験的な活動の前後でアンケートをとることにより、生徒の意識の変容を把握し、道徳の時間で補充・深化・統合するための資料選考の参考にした。

- ・職業に対して、今まで自分のこととして身近に感じたことが少ない生徒が、どのような印象を持っているかを把握したところ、経済志向や個人志向の割合が高かった「自分の好きなことをしながら多くのお金を稼ぎたい」という思いの強さがうかがえた。そこで、4-(5)「勤労、社会奉仕、公共心」についての道徳的価値の意識化を図ることができた。

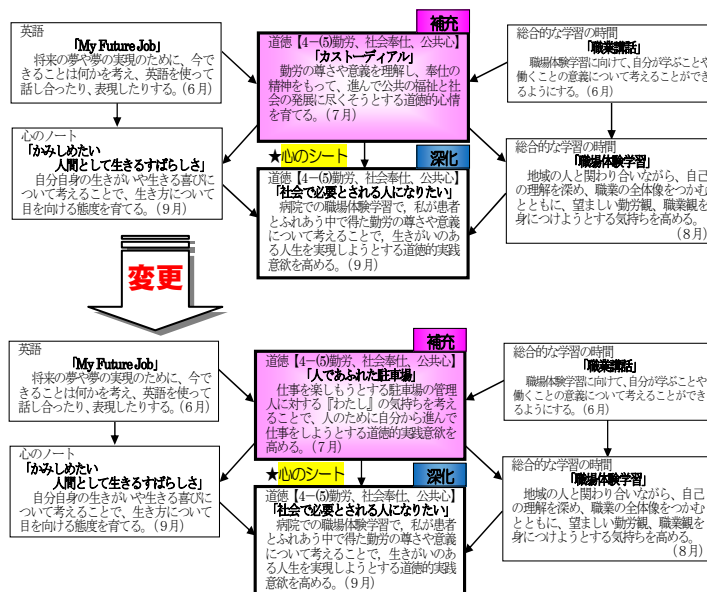
- ・社会志向に関する勤労観や職業観の意識が低い生徒に、職業選択に幅をもたせるために、道德の時間に補充することで道德的価値の意識化を図り、職場体験学習に出かけさせることができた。
- ・職場体験学習後のアンケート結果からは、経済志向の割合は減ったものの、個人志向の割合が大きく増加していた。これは、扱った読み物資料が【仕事をしようとする駐車場の管理人が、人のために働く】という内容であったことと、自分が希望した事業所で職場体験学習を行ったことが大きく影響した。
- ・社会志向の割合は、大きな変化がなかったもので、その後の道德の時間に深化させた結果、増加傾向が認められたことから、道德的価値観を高めることができた。



イ 研究構想の工夫 ～総合単元的な道德の授業を核にする～

生徒の実態に応じて、総合単元的な道德の授業の研究構想や、各学年の公共心に関わる内容項目を核とした年間構想を立てた。

- ・単独で職場体験学習を行うのではなく、総合単元的な道德の授業の一環として研究構想を設定することで、道德的価値観を意識した活動となり、働くことに対する目的意識が明確になった。
- ・道德的实践力だけでなく、道德的行為や習慣を含む道德性まで養えた。
- ・年度当初に企画した年間構想では「公共の福祉と社会の発展」の内容で、道德的心情を育てる予定であったが、社会志向に関する勤労観や職業観の意識が低いという生徒の実態から、「勤労の尊さや意義」の内容で、道德的实践意欲を高める資料に変更した。その結果、十分に社会志向に関する勤労観や職業観を深化させることができた。



1時間の授業を、意識化(導入)、価値の追求・把握(展開前段)、価値の内面的な自覚(展開の後段)、まとめ(終末)の4つの場面で構成する。そして、発問や板書の工夫をしたり、生徒の本音を引き出すために共感的に対応したりした。

- ・道德の時間で扱う資料のねらいを、道德的心情・判断力・実践意欲、道德的实践力の中の1つに定めることで、読み物資料のどの部分が中心発問になるかが明確になった。
- ・道德の時間の中で、生徒の意識がねらいからはずれることなく、基本発問から生徒の本音がスムーズに語り合えるようになった。
- ・生徒に内容項目を意識させたり、生徒と正対して発言を聞き、板書する量を精選したりすることで、生徒同士が本音で語り合う時間が増え、道德的価値観を高めることができた。
- ・生徒のふれられたくない心情に関わるが多い「価値の内面的な自覚」の場面で、ワークシートを活用することで、生徒の本音を引き出すことができ、友好な手だてとなった。

ウ 目標設定と振り返りの工夫 ～体験的な活動で心のシートを活用する～

体験的な活動の前後や、道德の時間で培ってきた道德的価値を補充・深化・統合した後に、道德の24の内容項目について、生徒にわかりやすく示した心のシートを作成し、生徒の道德的価値観を把握したり、変容を見たりした。

- ・職場体験学習に心のシートを使って、内容項目（道德的価値）を意識させたり、本校独自の具体的な目標（道德的実践力）を基に、自分の考える目標（道德的価値観）を設定したりすることで、希望した職種に合わせた内容項目を選び、各自の目標を定めることができた。
- ・自分の目標を具体的な目標を基にして、自分の言葉で表すことができ、目標が自分のものとなった。

内容項目	具体的な目標	体験的な活動での自分の目標
1-1(1) 時間や挨拶を習慣して生活し、自身の健康に気を配って生活することができる。	1-1(2) 目標の実現に向けて、最後まであきらめず、粘り強く取り組むことができる。	1-2(2) 失敗をしても、最後まであきらめず一生懸命がんばる。
1-1(3) 自律の精神、自主、誠意、責任	1-1(4) 自ら目標の實現をして、その結果に対して責任をもつことができる。	2-3(3) つらいことがあっても、友達と一緒に乗り越えることができる。
1-1(5) 向上心、個性の伸長	1-1(6) 前向きに考え、自分の強みや個性を伸ばそうとすることができる。	4-4(4) 職場体験が終わった時に達成感を味わえるように皆を引っ張っていくことができる。
1-1(7) 礼儀	2-1(1) 時と場合に応じて、明るく挨拶や礼儀正しい言葉遣いをする。	
1-1(8) 人間愛、思いやり	2-2(2) 多くの人に支えられていることを自覚し、感謝にしたり、返すことができる。	
1-1(9) 感情・情緒	2-2(3) 相手の気持ちや協力に、素直に「ありがとう」と言うことができる。	
1-1(10) 健全な異性観	2-3(1) 異性でものの強みや考え方が違うことをきちんと受け止め、お互いに尊重し合えることができる。	
1-1(11) 個性尊重、寛容・謙虚	2-3(2) 相手の考えや立場を尊重し、わがままを言わず、お互いに認め合えることができる。	
1-1(12) 尊敬・感謝、規範	2-3(3) 相手の手助けや協力に、素直に「ありがとう」と言うことができる。	
1-1(13) 生命の尊重	3-1(1) いのちあるものは互いに支え合っていることを自覚し、生命を大切にすることができる。	
1-1(14) 自然愛、自然の恵み	3-1(2) 自然を愛護し、美しいものに感動することができる。	
1-1(15) 人間性への貢献、生活の力	3-1(3) 変わりに返される、弱い自分に打ち勝ち、生き力を鍛えだすことができる。	
1-1(16) 道徳的精神、規範・義務	3-1(4) 変わりに返される、社会をよりよくしていくという気持ちをもつことができる。	
1-1(17) 正義、公正・公平	3-1(5) 変わりに返される、社会をよりよくしていくという気持ちをもつことができる。	
1-1(18) 道徳生活の向上	3-1(6) 道徳の中で自分の役割と責任を自覚し、道徳生活をよりよくしようとする。	
1-1(19) 規範、社会奉仕、公共心	3-1(7) 働く尊厳や職業を尊重し、進んで働く仕事や学生活動、体験的な活動をする。	
1-1(20) 家族愛	3-1(8) 家族の中で自分の役割を自覚し、家族の一員として積極的に協力することができる。	
1-1(21) 学校愛	3-1(9) 学校や学年、学校の一員としての自覚をもち、自分の学校や仲間を誇れることができる。	
1-1(22) 郷土愛	3-1(10) 地域社会の一員としての自覚をもち、生まれ育った郷土のために尽くすことができる。	
1-1(23) 愛国心	3-1(11) 日本で生活しているという自覚をもち、日本の発展のために力ができるか考えることができる。	
1-1(24) 国際理解、人間愛	3-1(12) 世界の様々な文化について関心をもち、世界の平和や人類の幸せについて考えることができる。	

体験的な活動についての教師のねらいとの相違の把握にも活用した。心のシートで選んだ具体的な目標を基に、さらに体験的な活動に対する自分の言葉に置き換えた目標を立てさせ、活動後の生徒の道德的価値観の変容を把握して、それを踏まえて、道德の時間で補充・深化・統合するための資料選定の参考にした。

- ・職場体験学習中にも常に自分の考える目標（道德的価値観）を意識して活動することができた。
- ・多くの学び（道德的価値観の変容）とともに、（道德的行為・習慣）まで習得できた生徒が見られたことは大きな成果であり、道德的実践力を高めるとともに、道德性を養う友好な手だてとなった。
- ・心のシートを基に、教師が生徒の思いをしっかりと受け止めることができ、道德の時間と絡めて効果的な支援を送ることができた。

体験的な活動での自分の目標	学んだこと
1-2(2) 失敗をしても、最後まであきらめず一生懸命がんばる。	大將に言われたことが最後までやることのできなくて怒られてしまったので最後までがんばることの大切さがあった。
2-3(3) つらいことがあっても、友達と一緒に乗り越えることができる。	掃除がきつかったけど友達と協力して乗り越えることができたので仲間の大切さがあった。
4-4(4) 職場体験が終わった時に達成感を味わえるように皆を引っ張っていくことができる。	皆が休んでいる時に今から言うように多量に自分の役割を果たすことがいかに大切か分かった。

5 研究の評価

(1) 研究の成果

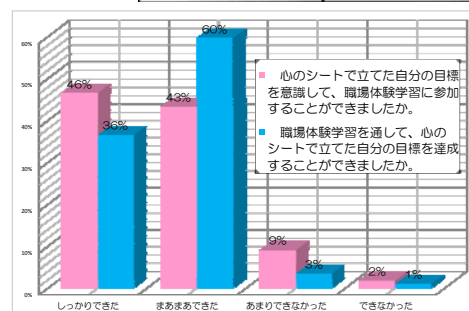
研究実践を総括すると、1ページ冒頭のようにまとめることができる。これらの成果は、事前・事後アンケートや心のシート、抽出生徒の意識の変容や、職場体験学習への参加状況と目標達成度のグラフなどからも明らかである。

以上のことから、道德的実践力や道德的価値観を高めるとともに、研究主題の「人との関わりを大切にすること」や「よりよい生き方を考えること」、副題の「生き方を見つめること」に関する実証ができたと考える。

(2) 今後の課題と取組

課題① 道德の時間の中で、体験的な活動に関わる1つの内容項目について、重点的に補充・深化・統合しがちになり、他の内容項目が疎かになってしまう可能性があるため、総合単元的な道德の授業の研究構想や各学年の年間構想を定期的・計画的に検討することが必要である。

課題② 「公共心」を育むために、さまざまな道德的価値を意識した総合単元的な道德の授業を展開することで、生徒の意識の変容は見られたが、公私をわきまえることができるようになったかどうかの検討は不十分なので、長期的な目で生徒を見守っていくことが必要である。



心のシートの目標を意識した職場体験学習への参加状況と目標の達成度